

令和元年度みどりの市民意識調査 概要版

調査概要

(1)調査目的

市民のみどりに関する満足度やみどりの施策に対する考え方、また、平成24(2012)年度に実施した同アンケート結果との比較による市民意識の変化などを把握し、その結果を今後の施策や計画づくりに反映する。

(2)調査仕様

調査対象	満18歳以上の仙台市民 5,000人
抽出方法	令和元(2019)年8月1日現在の住民基本台帳から無作為抽出
調査方法	無記名のアンケート調査(郵送による配布・回収)

(3)調査機関

調査票発送	令和元(2019)年9月5日
回収期限	令和元(2019)年9月27日

(4)有効回収数・回収率

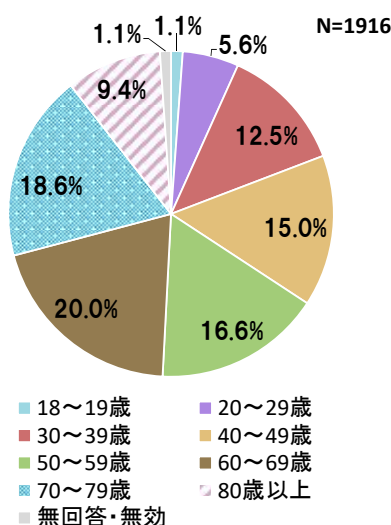
有効回収数	1,916票
有効回収率	38.3%

(5)留意事項

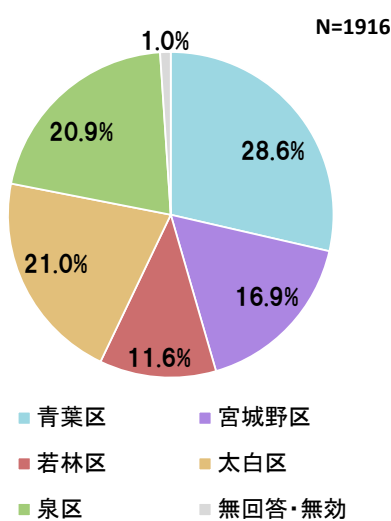
回答等の構成比は百分率であらわし、少数点第2位を四捨五入して算出しているため、構成比の合計が100%にならない場合がある。なお、回答者が2つ以上の回答を選択することができる多肢選択式の質問においては、すべての選択肢の比率を合計すると100%を超える。

調査回答者の属性

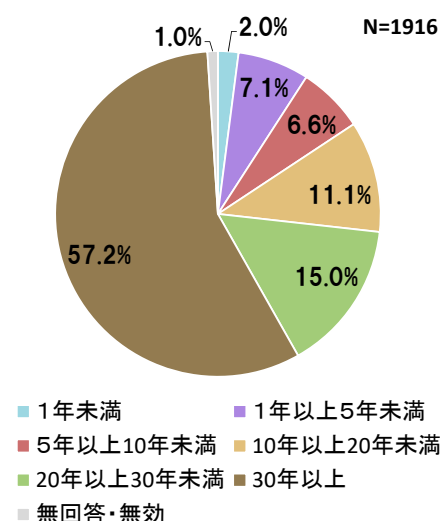
(1)年代



(2)居住地区



(3)居住年数



身近なみどりについて

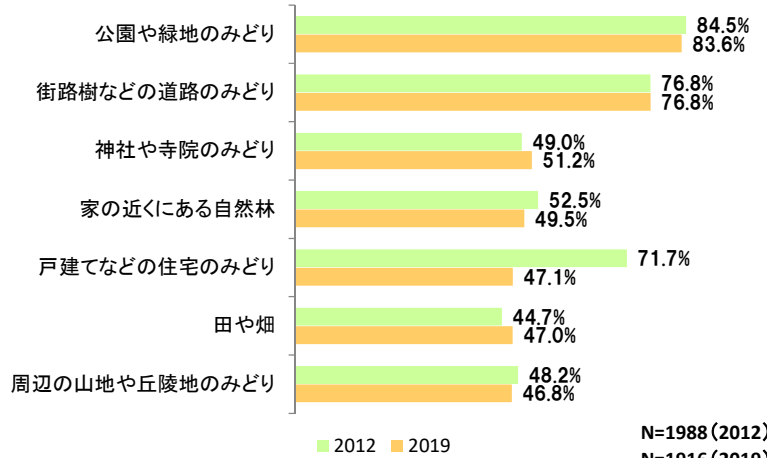
(1) 身近なみどり

■ 今回（2019年度）調査

約8割の人が「公園や緑地のみどり」、「街路樹などの道路のみどり」を選んでいる。

■ 前回（2012年度）調査との比較

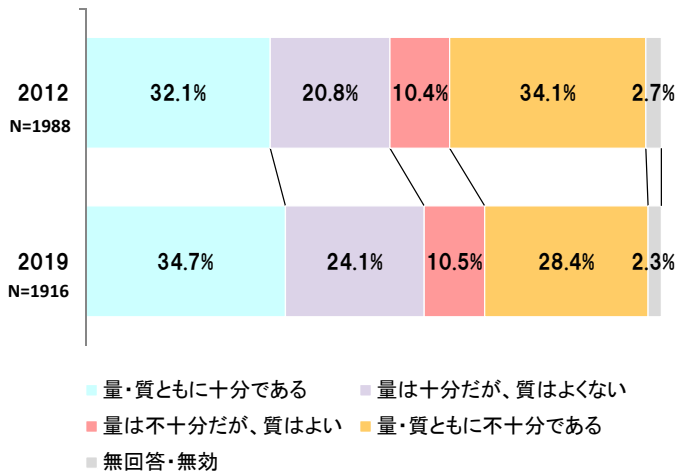
「公園や緑地のみどり」、「街路樹などの道路のみどり」の上位に変動はない。「戸建てなどの住宅のみどり」の回答割合が大きく減少し、それ以外の選択肢に大きな変化はみられない。



※複数回答可（個数制限なし）

※今回（2019年度）調査の上位7項目を抜粋

(2) 身近なみどりの満足度



■ 今回（2019年度）調査

「量・質ともに十分である」や「量・質ともに不十分である」について、それぞれ約3割の人が選んでいる。

■ 前回（2012年度）調査との比較

「量・質ともに十分である」や「量は十分だが、質はよくない」の割合が増加しており、量に関する満足度が高まっている。

みどりの「質」…生活環境を良くする、生物を保全する、景観を良くする、癒しをもたらすなど、みどりが持つ機能のこと

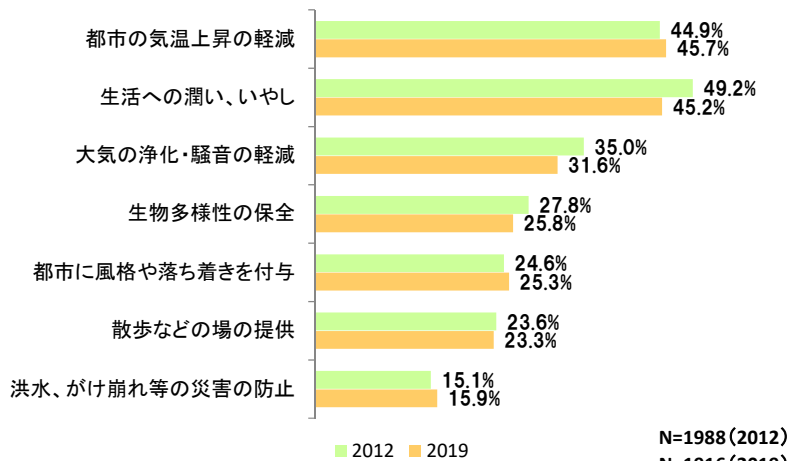
(3) 身近なみどりに期待する機能

■ 今回（2019年度）調査

約5割の人が「都市の気温上昇の軽減」や「生活への潤い、いやし」を選んでいる。

■ 前回（2012年度）調査との比較

「都市の気温上昇の軽減」と「生活への潤い、いやし」の順位が逆転した。また、「大気の浄化・騒音の軽減」などでは回答割合が減少している。



※3つまで複数回答可

※今回（2019年度）調査の上位7項目を抜粋

■ 杜の都という言葉について

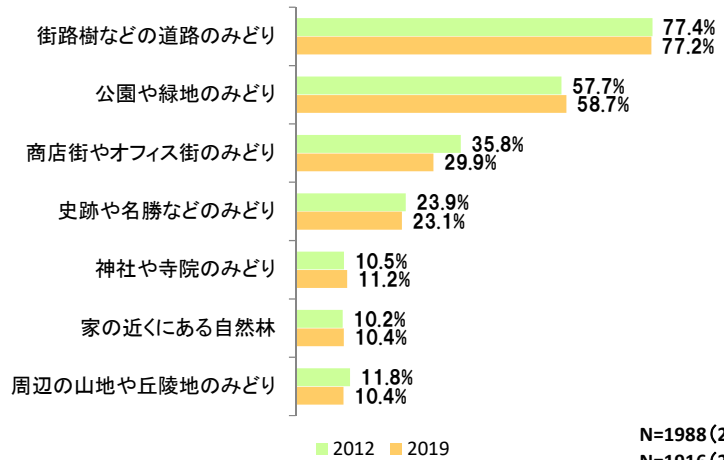
■ (1)杜の都という言葉から思い描くみどり

■ 今回（2019年度）調査

約8割の人が「街路樹などの道路のみどり」を選んでいる。

■ 前回（2012年度）調査との比較

「街路樹などの道路のみどり」、「公園や緑地のみどり」の上位に変動はない。「商店街やオフィス街のみどり」の回答割合が減少しているが、それ以外の選択肢に大きな変化はみられない。

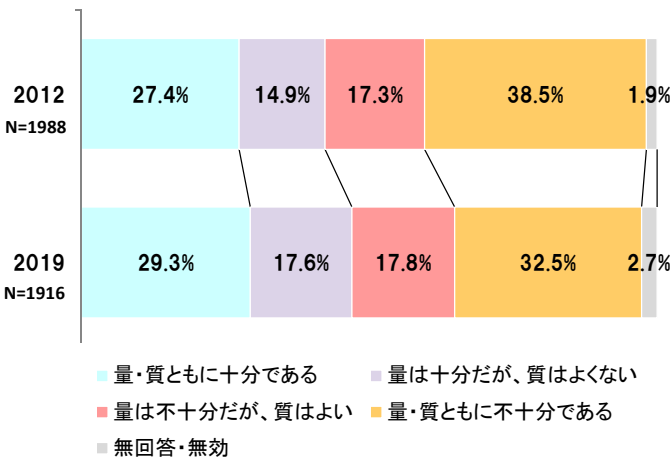


※3つまで複数回答可

※今回（2019年度）調査の上位7項目を抜粋

N=1988 (2012)
N=1916 (2019)

■ (2)杜の都という言葉からみるみどりの満足度



■ 今回（2019年度）調査

「量・質ともに十分である」や「量・質ともに不十分である」について、それぞれ約3割の人が選んでいる。

■ 前回（2012年度）調査との比較

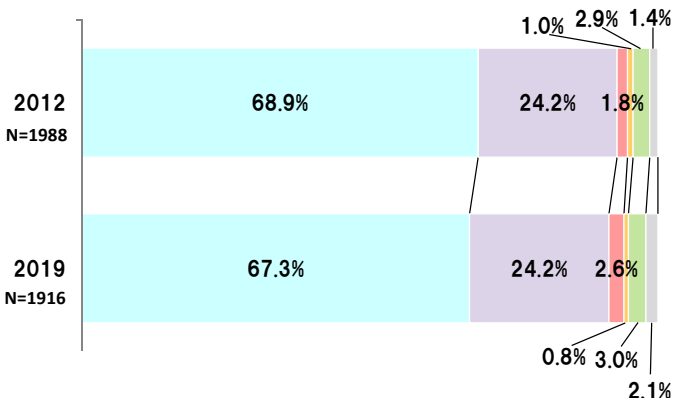
「量・質ともに十分である」や「量は十分だが、質はよくない」が増加しており、量に関する満足度が高まっている。

みどりの「質」…生活環境を良くする、生物を保全する、景観を美しくする、癒しをもたらすなど、みどりが持つ機能のこと

■ みどりのまちづくりについて

■ (1)樹林地などの身近なみどりの保全について

①自然のみどりの保全と都市開発とのバランス



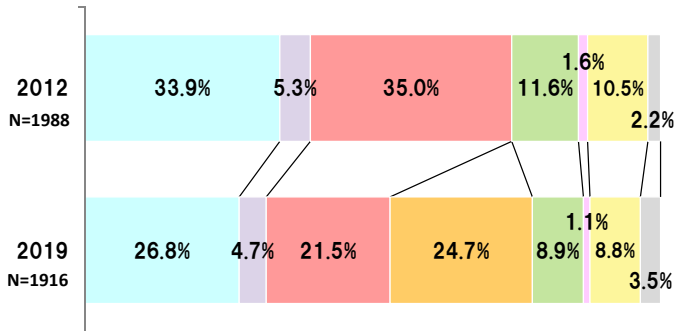
■ 今回（2019年度）調査

約7割の人が「必要な開発のみにし、できるだけみどりを残し、新たなみどりの創出を努力」を選んでいる。

■ 前回（2012年度）調査との比較

各選択肢の回答割合に大きな変化はみられない。

②私有地のみどりの保全方法



- 個人の土地であっても法律などで土地利用を規制し、開発行為を制限
- 他の行政サービスが減り、市民の負担が増えても、行政で土地を買い取り保全
- 市民・企業・行政が一体となって保全のための基金などをつくり、募金をつくる
- 所有者の意向を踏まえながら、町内会や市民活動団体などが保全活動に参加
- 個人の土地なので、保全・開発は個人の意志にまかせる
- その他
- わからない
- 無回答・無効

■今回（2019年度）調査

約3割の人が「個人の土地であっても法律などで土地利用を規制し、開発行為を制限」を選び、次いで「所有者の意向を踏まえながら、町内会や市民活動団体などが保全活動に参加」、「市民・企業・行政が一体となって保全のための基金などをつくり、募金をつくる」を選んでいる。

■前回（2012年度）調査との比較

何らかの方法で保全すべきだと考えている人は7割を超えており、あまり変化はみられない。一方で、新たに選択肢に追加した「所有者の意向を踏まえながら、町内会や市民活動団体などが保全活動に参加」が2割を超えているが、「個人の土地であっても法律などで土地利用を規制し、開発行為を制限」や、「市民・企業・行政が一体となって保全のための基金などをつくり、募金をつくる」は減少している。

(2)市街地の緑化について

①重点を置くべき緑化箇所

■今回（2019年度）調査

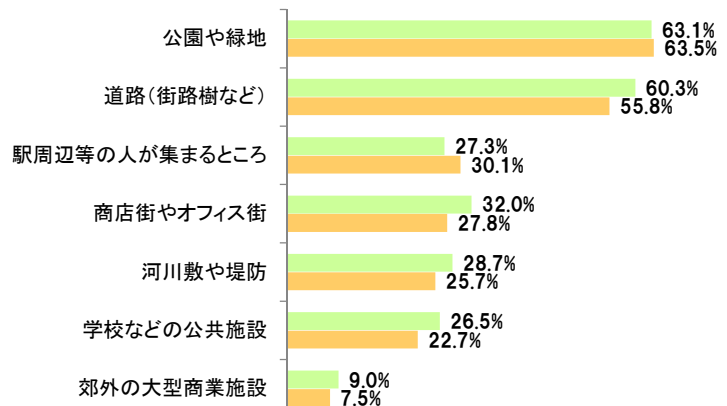
5割以上の人が「公園や緑地」や「道路（街路樹など）」を選んでいる。

■前回（2012年度）調査との比較

「公園や緑地」、「道路（街路樹など）」の上位に変動はない。「駅周辺等の人が集まる場所」などの回答割合が増加している。

※3つまで複数回答可

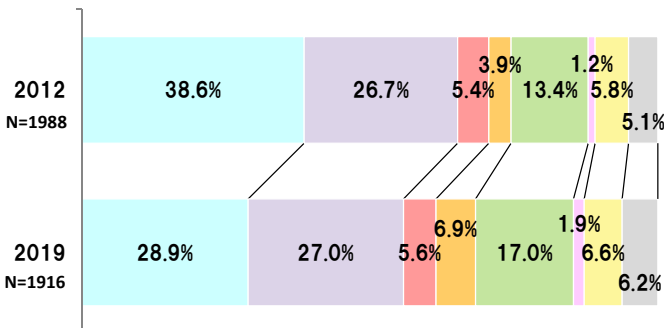
※今回（2019年度）調査の上位7項目を抜粋



■ 2012 ■ 2019

N=1988(2012)
N=1916(2019)

②みどりの増加に必要な行政の取り組み



- 緑化義務や開発規制についての法律・条例の強化
- 補助金支給や苗木配布などの助成制度
- イベントや表彰などの普及啓発
- ホームページや情報誌などでの情報提供
- 市民活動団体への支援
- その他
- 特になし
- 無回答・無効

■今回（2019年度）調査

「緑化義務や開発規制についての法律・条例の強化」や「補助金支給や苗木配布などの助成制度」が合わせて5割を超えて選ばれている。

■前回（2012年度）調査との比較

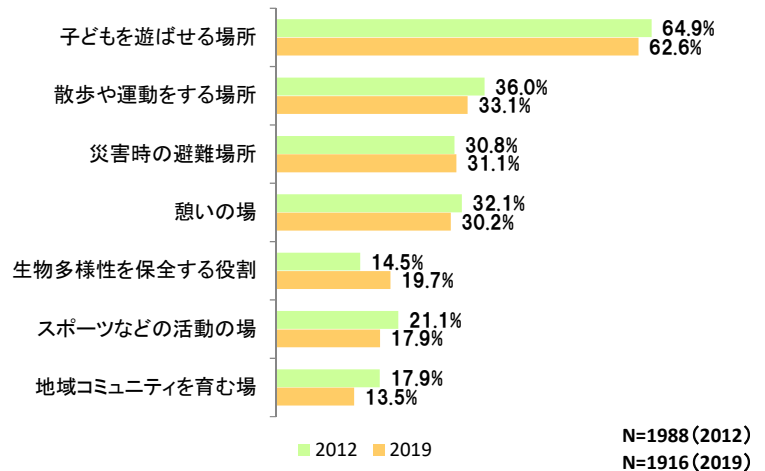
「緑化義務や開発規制についての法律・条例の強化」のみが減少し、「市民活動団体への支援」などは増加している。

(3)公園について

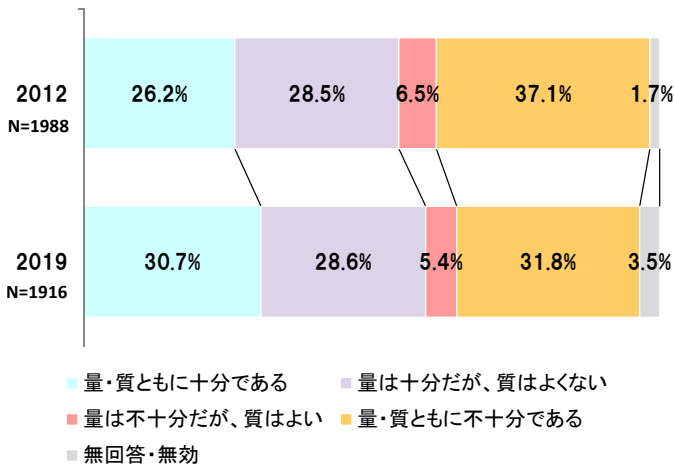
①住まいの近くの公園の役割

- 今回（2019年度）調査
約6割の人が「子どもを遊ばせる場所」を選んでいる。
- 前回（2012年度）調査との比較
「子どもを遊ばせる場所」、「散歩や運動をする場所」の上位に変動はない。「生物多様性を保全する役割」の回答割合が増加し、「スポーツなどの活動の場」は減少している。

※3つまで複数回答可
※今回（2019年度）調査の上位7項目を抜粋



②住まいの近くの公園の満足度



- 今回（2019年度）調査
「量・質ともに十分である」や「量は十分だが、質はよくない」、「量は不十分だが、質はよい」がそれぞれ3割程度となっている。
- 前回（2012年度）調査との比較
「量・質ともに十分である」や「量は十分だが、質はよくない」が増加しており、量に関する満足度が高まっている。

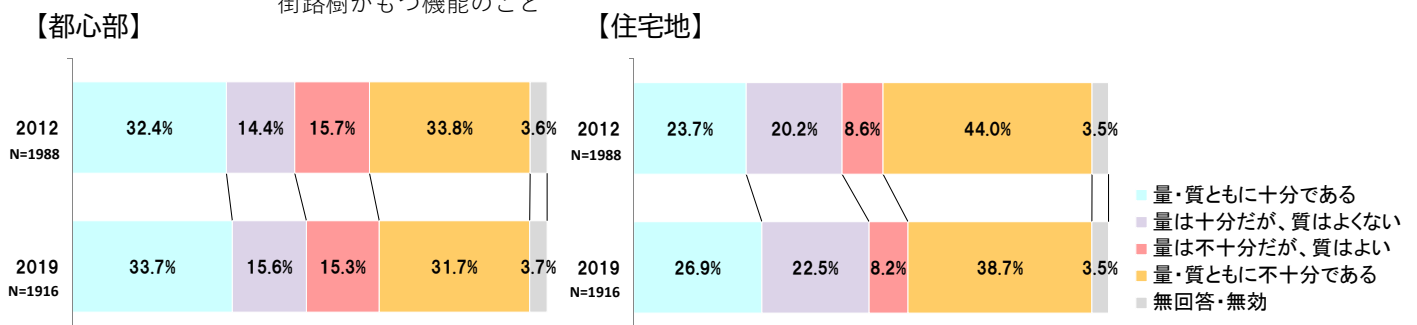
公園の「量」…広さや数のこと
公園の「質」…施設の整備や管理の状況のこと

(4)「都心部」と「住宅地」の街路樹について

①街路樹の満足度

- 今回（2019年度）調査
都心部は「量・質ともに十分である」、住宅地は「量・質ともに不十分である」が最も多くなっている。
- 前回（2012年度）調査との比較
都心部、住宅地ともに「量・質ともに十分である」が増加し、「量・質ともに不十分である」が減少し、量・質両方に関する満足度が高まっている。

街路樹の「質」…気候緩和などの都市環境を改善する、景観を美しくする、生物を保全する、癒しをもたらすなど、街路樹がもつ機能のこと



②街路樹に期待する機能

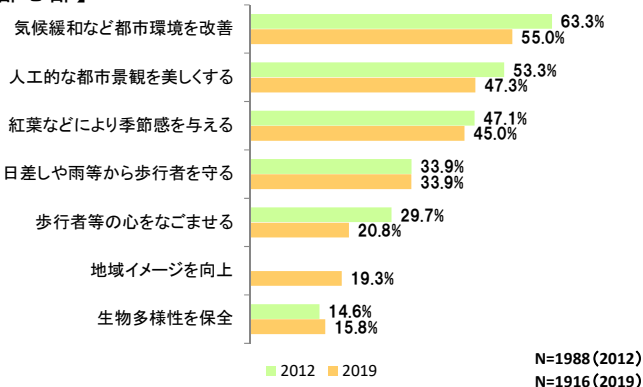
■今回（2019年度）調査

都心部では「気候緩和など都市環境を改善」が選ばれている一方、住宅地では「紅葉などにより季節感を与える」が最も選ばれている。

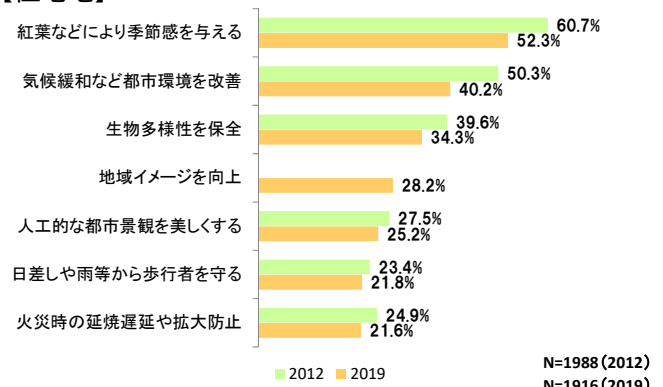
■前回（2012年度）調査との比較

都心部、住宅地ともに順位にほとんど変動はないが、回答の新たな選択肢として追加された「地域イメージを向上」などが選ばれたことにより、ほとんどの選択肢の回答割合が減少している。

【都心部】



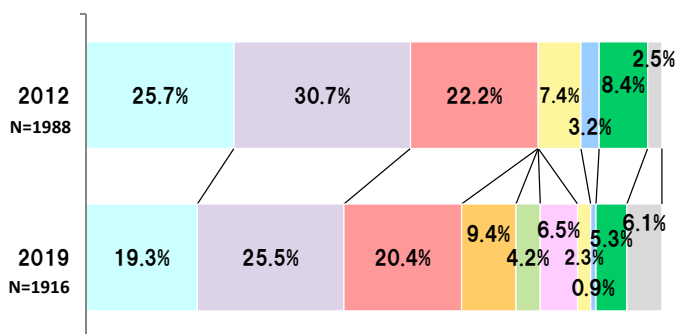
【住宅地】



※3つまで複数回答可

※今回（2019年度）調査の上位7項目を抜粋

③高木(樹高3m以上)の街路樹の管理



■今回（2019年度）調査

「数年に1回強く切り詰める剪定を行い、現在植栽されている樹種を生かす」が最も多く選ばれている。

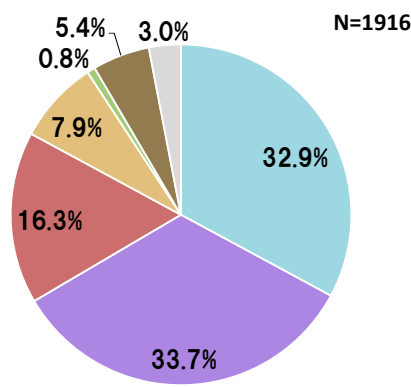
■前回（2012年度）調査との比較

最も多く選ばれた選択肢は変わらないが、新たな選択肢として追加された「樹木が大きくなりすぎた場合、同一種に植え替え」や「歩道幅を拡げて植樹を大きくし生育環境を改善して大きく育てる」なども選ばれたことにより、各選択肢の回答割合が減少している。

- 毎年多額の費用をかけ、剪定等を実施し、樹形を整える
- 植樹や生育環境に合わせ、枝葉の広がらない樹木に植え替え
- 歩道幅を拡げて植樹を大きくし生育環境を改善して大きく育てる
- 膨大な手間と費用をかけ、街路樹を植栽し、維持管理する必要はない
- わからない

- 数年に1回強く切り詰める剪定を行い、現在植栽されている樹種を生かす
- 樹木が大きくなりすぎた場合、同一種に植え替え
- 街路樹(高木)を植栽する路線を限定する
- その他
- 無回答・無効

(5)定禅寺通・青葉通のケヤキ(街路樹)について



■今回（2019年度）調査

「現在の更新方法のままで状態の悪いケヤキから植え替えを行う」や「若々しく現在の並木の状態を保てるように計画的に植え替えを行う」がそれぞれで3割を超えている。

- 現在の更新方法のままで状態の悪いケヤキから植え替えを行う
- 若々しく現在の並木の状態を保てるように計画的に植え替えを行う
- 計画的な植え替えに加え、ケヤキを現在よりも大きくシンボルとする、歩道幅を拡げて植樹を大きくするなど生育環境を改善
- 計画的な植え替えに加えて、今より小さく管理を行う
- その他
- わからない
- 無回答・無効

(6)河川について

①仙台市の河川への親しみ

■今回（2019年度）調査

河川に対して、約5割の人が「非常に身近に感じる」または「身近に感じる」と回答している。

■前回（2012年度）調査との比較

回答割合に大きな変化はみられない。

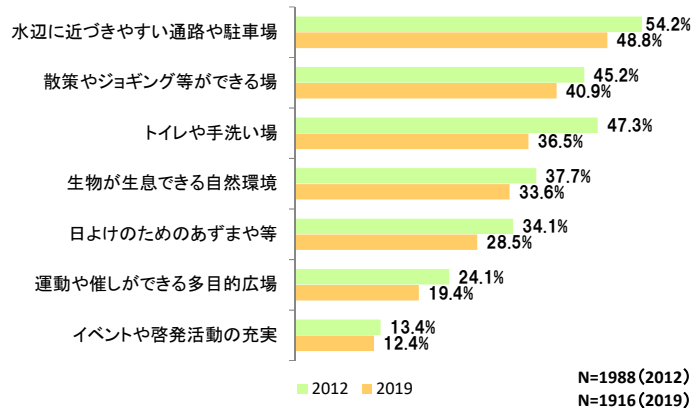
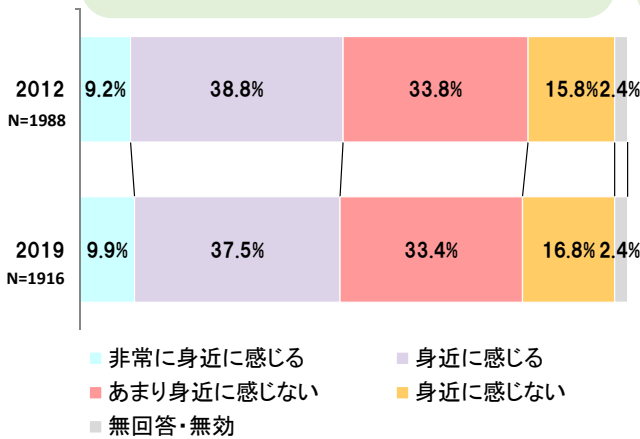
②水辺空間の利用に特に必要なもの

■今回（2019年度）調査

「水辺に近づきやすい通路や駐車場」が最も多く、次いで「散策やジョギング等ができる場」、「トイレや手洗い場」が選ばれている。

■前回（2012年度）調査との比較

最も多く選ばれた選択肢は変わらないが、すべての選択肢で回答割合が減少しており、特に「トイレや手洗い場」が大きく減少している。



※3つまで複数回答可

※今回（2019年度）調査の上位7項目を抜粋

みどり豊かなまちづくりへの参加について

(1)みどり豊かなまちづくりのために実践している・実践したい活動

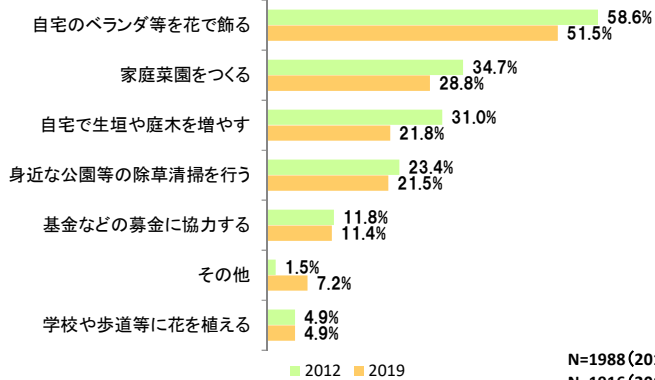
■今回（2019年度）調査

実践している活動、実践したい活動ともに約5割の人が「自宅のベランダ等を花で飾る」を選んでいる。

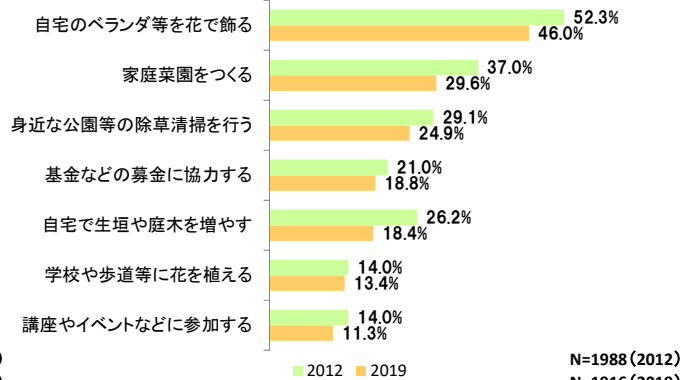
■前回（2012年度）調査との比較

実践している活動、実践したい活動ともに順位に大きな変動はないが、ほとんどの選択肢の回答割合が減少している。

【実践している活動】



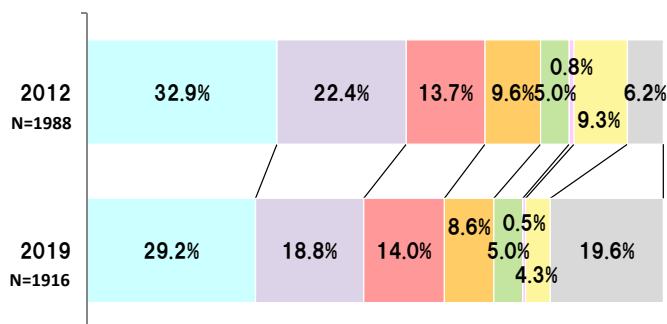
【実践したい活動】



※両設問とも複数回答可（個数制限なし）

※今回（2019年度）調査の上位7項目を抜粋

(2)みどり豊かなまちづくりのために必要なこと



■今回（2019年度）調査

約3割の人が「緑化に取り組みやすくなるような政策づくり（体制の整備）」を選んでいる、最も多くなっている。

■前回（2012年度）調査との比較

「無回答・無効」が大きく増えており、「市民等への情報提供の充実」や「計画づくりなどに参加する機会」以外は減少している。

- 緑化に取り組みやすくなるような政策づくり(体制の整備)
- 市民等への情報提供の充実
- 計画づくりなどに参加する機会
- わからない

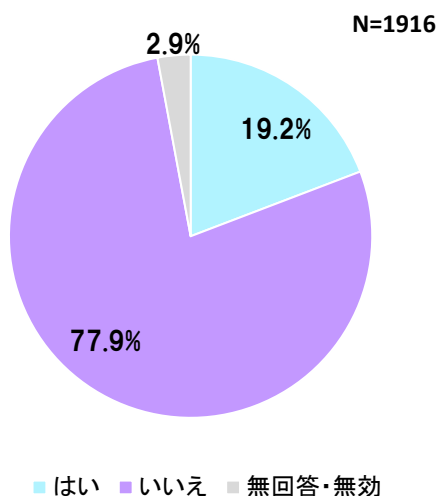
- 市民・市民活動団体・事業者・行政が連携した事業の展開・推進
- 資金・資材・人材の支援
- その他
- 無回答・無効

「グリーンインフラ」について

①グリーンインフラという言葉の認知度

■今回（2019年度）調査

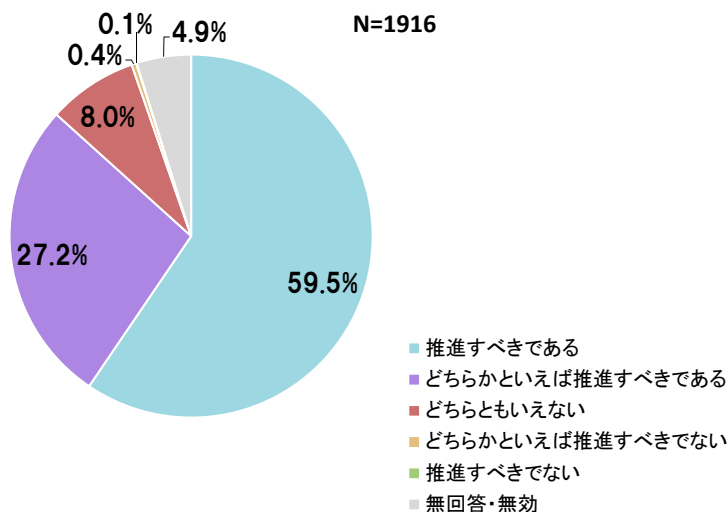
グリーンインフラに関して、約8割の人が「いいえ（知らない）」を選んでいる。



②グリーンインフラの考え方を取り入れたまちづくり

■今回（2019年度）調査

約9割の人が「推進すべきである」または、「どちらかといえば推進すべきである」を選んでいる。



令和元年度みどりの市民意識調査 概要版

令和2年3月

仙台市建設局百年の杜推進部百年の杜推進課

〒980-8671 仙台市青葉区国分町 3-7-1 TEL: 022-214-8388

※本調査の詳細については市ホームページ

(<http://www.city.sendai.jp/hyakunen-chose/kurashi/shizen/midori/mesho/chosa.html>) をご覧ください。